

過疎地域における公共交通再編に関する事例研究～珠洲市交通社会実験を事例として～

金沢大学工学部土木建設工学科

○ 森 浩介

金沢大学理工研究域環境デザイン学系 フェロー

高山 純一

金沢大工理工研究域環境デザイン学系 正会員

中山晶一朗

1. はじめに

(1) 背景

公共交通の利用者数は、モータリゼーションの進展により年々減少している。特に地方部においてはマイカーに大きく依存している。このような現状で公共交通事業は営利事業として成立させることが困難であり、公的補助についても限界がある。しかし、これからの超高齢化時代に公共交通を利用せざるをえない移動制約者に対しての、利用ニーズに即した公共交通の整備が必要である。

奥能登地域の珠洲市では、現在バス路線として4種類のバス(一般生活路線、特例生活路線、転換バス、循環バス)が運行されている。しかしながら、採算性が芳しくなく、毎年、行政による多額の赤字補填が続いている。今後、さらなる過疎化の進行、少子化に伴う児童数の減少によって、利用率は減少することが予想される。そして、利用者減少により、運行路線の廃止・縮小等のサービス水準の低下を余儀なくされ、「交通弱者」の生活交通を確保することが難しくなると考えられる。

そこで、地域住民のバスニーズを明らかにし、効率的かつ採算性を向上させるようなバス運行サービスを提案する必要が求められている。

(2) 目的

本研究では、平成20年9月と12月に珠洲市内で実施される交通社会実験に基づき、社会実験前後の住民意識の変化や公共交通の利用意向を明らかにする。さらには昨今、環境問題への意識が高まりつつある中、交通社会実験によるインセンティブだけでなく、その他要因による効果についても言及したい。さらには、珠洲市の公共交通システムの中でも、効果的だと考えられるスクールバスとの混乗システムについて、その有用性や住民ニーズをアンケート等で明確化させ、今後の混乗システムに対する住民の意識や課題等をまとめたい。

2. 珠洲市の現状

(1) 人口推移

珠洲市の平成19年の総人口は18759人である。平成3年の25101人から年々300～400人のペースで人口減少が続いている。今後も人口減少が続いていくと考えられる。

次に年齢別の人口推移は、65歳以上の高齢者率が年々増加し、平成17年には35%を超えている。また、0～14歳の割合は年々減少し、平成16年には10%を下回っている。今後も少子高齢化は進んでいくと考えられる。

(2) 珠洲市のバス

珠洲市のバスは、全体として利用者が減少傾向にある。さらに、1.市域東部の沿岸部の集落と中心市街地とを結ぶ「木の浦線」の利用が路線バスの中で多い、2.スクールバスと路線バスの重複地域がある、3.市域西部の山間集落において公共交通のない空白地域がある、という現状がある。

3. 交通社会実験(9月期)の概要

(1) おでかけバス実験

本実験の目的は、バス利用が市民に有益であるという認識を持たせ、新たな需要増加をはかり、バスを利用し中心市街地の活性化につなげることにある。

a) 実験内容

- ① バス車両内で「おでかけバス券引換券」を1枚配布(上下線ともに配布)
- ② 協力店で1000円以上買い物をしたバス利用者に対し、個店で「おでかけバス100円券」を渡す。
- ③ 「おでかけバス100円券」を受け取ったバス利用者は、バス料金の割引を受ける(1回の乗車につき1枚の利用可能)

b) 実験期間

- ① 引換券配布期間 9月1日～9月12日
(土日を除く10日間)
- ② 「おでかけバス券」との引き換え期間

9月1日～9月12日

③ 「おでかけバス 100 円券」の利用可能期間

9月1日～9月30日

(2) おかえりバス実験

本実験の目的は、午後から予約制のデマンドバスを運行することにより、市民の「帰りの足」を確保することにより、市民の外出意欲を高め、バス利用者の増加を図ることにある。

a) 実験内容

運行ルートを図-1 に示す。大きく分けて大谷線(図中青線)・木ノ浦線(図中赤線)の路線がある。曜日により出発地点付近の停車バス停が異なる。既存のダイヤと比較して2ルートあわせて計8便の増便となる。料金設定は通常の路線バスを利用する運賃より、多少高く設定してある。

・予約システム

利用者は基本的に出発する1時間前までに以下の3つの方法で予約を行う。

- ① 珠洲市総合病院・ラポルトすずの受付窓口申し込む。
- ② 飯田高校の高校生は前日に学校で取りまとめて運行事業者に連絡する。
- ③ 個別に運行時事業者へ電話で予約することも可能である。

b) 実験期間

9月1日～9月30日の月・火・土の14日間運行(午後からの運行となる)



図-1 おかえりバスルート

4. アンケート調査

(1) 調査概要

本研究で利用するアンケートは平成20年10月に珠洲市全域の住民を対象に実施されたアンケートである。無作為に抽出した3000世帯に配布し、合計610部が回収され、回収率は20.3%である。

(2) アンケート結果

a) 回答者属性

性別は男性(50.5%)が女性(49.5%)よりも多い割合であった。年齢構成は、60代の29.1%が最も多く、10代、20代は合わせても0.5%と少なかった。80代以上は8.9%と比較的多くを占めている。

b) 交通社会実験の認知度

アンケートでは、交通社会実験を「知っている」という回答者の中でもその認知の度合いを聞いている。交通社会実験(おでかけバス・おかえりバス)の認知度を図-2に示す。

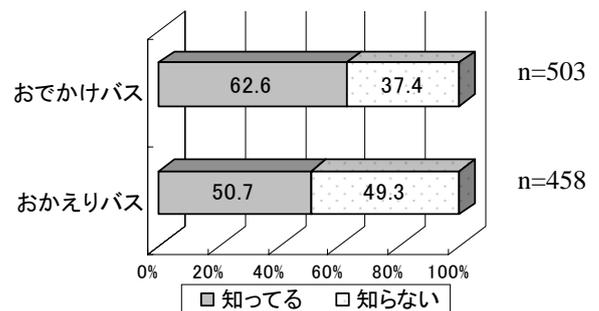


図-2 交通社会実験の認知度

この認知の差で交通社会実験の満足度、公共交通に対する意識、行動変容にどのような影響があるのか、分析を進めている。

5. おわりに

今回は、珠洲市の現状、珠洲市で行われている交通社会実験の概要などを示したが、今後、クルマ利用者、バス利用者などのサンプルに分類して、交通社会実験がどのような影響であったのかを分析し、これからの珠洲市の公共交通の課題、対策を考える。効果的な対策として考えられるスクールバス混乗システムに対する住民の意識調査を進め、住民の理解が得られるような対策を分析していく。これらの結果は、講演時に詳しく発表する。

謝辞

本研究は石川県地域課題ゼミナール事業の一環として行った調査研究である。ここに記して、研究助成に感謝したい。

参考文献

「統計すず」珠洲市総務課統計担当、2007。

(http://www.city.suzu.ishikawa.jp/home/city_data/toukei_suzu/toukei_top/toukei_main.htm)